

# 2 (火)

## 御心ならば

マルコによる福音書一章35〜45節

規定の病を患っている人が、イエスのところに来て、ひざまずいて願い、「お望みならば、私を清くすることがおできになります」と言った。(40)

重い皮膚病を患っている人が主イエスのもとへ来て、「お望みならば」と癒やしを願い求めました。他の訳では「御心ならば」と訳されています。主の御心がどこにあるのかを尋ねているのです。全ては主のご支配のもとにあり、自分が指図する問題ではないことを彼は弁えていました。しかし、もし自分の願いを言い表すことが許されるなら、「清めて欲しい」と願っているのです。主の憐れみにすがりつつ、祈るのです。主イエスは彼の願いを聞き、「私は望む。清くなれ」(41)と言われました。「イエスが深く憐れんで」とあるように、主イエスの御心は憐れみと結びついていました。神は御心のままにみわざをなさいますが、決して冷たいお方ではなく、私たちを深く憐れんでくださるお方です。そのようなお方だからこそ、心からの信頼をもって「御心ならば」と祈ることができるのです。